

BOOK REVIEW

調剤と服薬指導がわかる 小児科これだけ

監修：原島 知恵（御所南はらしまクリニック 副院長）

著：山本 佳久（帝京平成大学薬学部 教授）

島崎 学（帝京平成大学薬学部 准教授）

藤田 友紀（国立成育医療研究センター看護部）

本書を手にとったみなさまは「小児科」「調剤」「服薬指導」というキーワードが目についたのではないのでしょうか。

一般に医療従事者のキャリアパスとして、臨床でジェネラリストとして経験を経て、その後スペシャリストを目指すというものは、医師だけでなく、薬剤師にとってもなじみ深いでしょう。私見になりますが、なかでも小児領域に関しては、志す若手薬剤師が多いのではないのでしょうか。一方で、スペシャリストとなるための専門書は難解なものも少なくないうえに、ジェネラリストとして一般論の一環として小児領域を学びたい場合やスペシャリストを志す際の入門書として使用できるような成書もこれまで多くはなかったように思います。本書はそのような隙間を埋める一冊という位置づけともいえるように感じます。

諸外国と比べて、わが国の小児領域の調剤は、保護者の負担軽減や投薬間違いを回避すべく、さまざまな工夫が凝らされています。液剤（または懸濁用剤）のボトル調剤が基本の諸外国と比べると、患者に合わせ1回用量ごとに散薬が分包されることは国際的には必ずしも多くなく、加えて液剤の一線あて調剤、薬袋を用いた調剤など、ある意味諸外国の調剤の概念とは少し異なる状況ともいえるかもしれませんが、これは、子どもや保護者に対して少しでも投薬が負担にならないようにと配慮されたものでありますが、細かい部分に関しては系統立てて学ぶ機会は少なく、各薬局・薬剤部において内規として存在した内容を覚えて調剤が行われているのが現状だと思います。当然、服薬指導に関



B5判／206頁

定価：2,970円（本体 2,700円＋税 10%）

発行：南山堂（2023年10月）

しても、小児がしばしば罹患する疾患などに関し、年齢（月齢）に合わせ、保護者に対して適切にかつ短時間でポイントを伝えるということが必要であり、薬剤師としての知識・技術・態度などが総動員されるシーンとなります。

本書では、前述の「調剤」「服薬指導」に加えて、小児領域でしばしば目にする一般的な疾患に関して系統のかつ網羅的にまとめられており、小児医療に興味をもつ医療従事者、特に薬剤師、薬学生のための小児領域への入門書としておすすめできる一冊です。

昭和大学 統括薬剤部／薬学部病院薬剤学講座 准教授

百 賢二